

スロバキアにおける歴史問題とフィツォ政権

—— スロバキア国家(1939-45年)の歴史をめぐる論争と外交政策——

在スロバキア大使館
専門調査員 福田 宏

要旨

本稿は、スロバキア政治における歴史問題の構造を解明しようとするものである。同国のフィツォ政権には民族主義的な政党が与党として参加しており、特にハンガリーとの外交関係を悪化させるなど、内政・外交の双方に重大な影響を与えている。本稿においては、問題の本質を理解するために、まず歴史論争の経緯を概観し、歴史学界や国民記憶院の動向も含めつつ、民族主義的な歴史認識の構造を明らかにしたい。そのうえで、同国政治における民族主義の影響力を検証し、一般的に考えられているほど歴史問題が深刻化していないという結論を導く。ただし、「正しい」歴史認識を提示することは本稿の目的ではない。ここでの目的は、外交政策を遂行するうえで「障害」となりうる歴史問題をどのように扱うべきかについて、スロバキアを事例として考察することである。

目次

はじめに	2
1. スロバキアにおける歴史問題.....	3
1-1. スロバキア国家（1939-45年）の位置づけをめぐる.....	3
1-2. 歴史論争の経緯.....	4
2. 愛国派の歴史観とその論理構造.....	5
2-1. ジュリツァにとってのスロバキア国家.....	5
2-2. スロバキアの国民史と他の国民史が衝突するとき.....	10
3. スロバキア政治における歴史問題の位置づけ.....	12
3.1 若手歴史家の台頭と政治化する記憶院.....	12
3.2 スロバキア政治における民族主義の「飼いならし」.....	14
おわりに	15
インタビュー記録（ABC順・敬称略）.....	16
参考文献	17